也。寒拍子ト云ハカヤウノ物也

●●●◎◎◎
　　＊

次ニ四拍子物ト云ハ鞨コ拍子四ノトキ大鼓一打之。

●●●◎　如此ノコトナリ。件ノ加拍子ハカコ一拍子後大鼓一カコ一拍子ノ後大コ一間
＊

拍子ニ打之。

●＊◎●＊◎　一説●◎◎◎一説●◎◎◎一説●◎◎◎
　　＊　　＊

此樂ハ大カイハカリナリ。或家々ノ説ニヨリ或ハ樂ノ姿ニヨリテカワル事ナレバ、委ハ何モ其所ニ注侍トナリ

又古樂ノ搔拍子、忠拍子、樂拍子、其説相替レリ。又四拍子搔コレアリ。先八拍子ノ樂拍子搔ニツイテ説々アリ

一説京樣常用之●●●◎◎◎◎◎●●◎　此片槌ヲ二上ノコトク打ヲ一打説トモ云ヘシ。書落ニアラズ
＊　　＊　　＊　　＊

一説奈良樣秘之●●●◎◎◎◎◎◎●●●◎◎●●◎
＊　　＊　　＊　　＊　　＊

前ニモ注重テ注心アリ。專ラ陵王破、喜春樂破等ニ加之秘説也云々、就中奈良樣ハ陵王破ニ用之。余曲ニハ不可用之。

一説鳥搔●●●◎＊＊◎＊＊◎●●●◎＊＊◎＊＊◎
　　＊　　＊　　＊　　＊　　＊

尤鳥破ノ時可用之處秘説ノユヘニヤ常ニ只古樂ノ搔樣ニカキ侍リ。是ハ舞手ニ銅拍子ヲ突ニ合テメテタク侍リ。

忠拍子搔樣一説●●●◎＊＊◎＊＊◎●●●◎
　　＊　　＊　　＊　　＊

一説●●●◎＊＊◎●●●◎●◎　前ノ一ハチト同之
　　＊　　＊　　＊　　＊

一説●●●◎＊＊◎●●●◎＊◎　此一ハチト同之
　　＊　　＊　　＊　　＊

還城樂、蘓莫者破、倍臚等ニ可レ用レ之。但於ニ第三説一者可レ用。還城樂秘之余曲不レ可レ用レ之。

又新古樂ノ搔樣●●●◎＊◎＊＊◎●●●◎●◎
＊＊＊＊＊＊

雖爲新樂忠拍子ノ時ハ如此可加云々 但此說古キ記ニハ不ニ見及一、近比ノ人ノ今案歟トヲボヘ侍リ。船樂等ノ時万歲樂、慶雲樂等ノ類用忠拍子ニ時ハ如還城樂コレヲカク、而ヲ今始ノ段ニ拍子一ヲ不打、已下ハ如還城樂破、以之案之今案之条無子細歟。只小桴一ヲ不打許ヲモテ新古ノ樂ノカキ樣ト云トイヘリ。

又四拍子搔樣　一說◎＊＊◎●＊＊◎
＊＊＊　後ニ書入也

一說◎＊＊◎◎＊◎＊＊◎◎＊◎◎＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊　不書絕拔頭陪臚等ニ用之

新古兩說ノ樂ニヲイテハ鞨鼓ヲ用ム日ハ三度拍子ヲ加ベシ。一鼓ヲ搔ク日ハ古樂ニ搔ヘキナリ。此古實ヲシラス、兩說アレハトテ、カコ一ヲソムク事無下ニキラヒナキ輩ノシハサナリ。

古記云ク、六鞨鼓ノ樂ニ加拍子事忠拍子ニハ鳥向樂、央宮樂、春庭樂、廻忽、遊字女此類皆忠

拍子ノ時ヲモテ終ノ息ヲ止吹 又云、白川院ノ御時六條內裏行幸アリ、新院御在位ノ時朱雀大納言俊明頻ニ舉シ申サル延章ヲ。仍此日始テ召出サル奉勅右大鼓ヲ打皇仁ノ時ニ至テ謬損拍子畢。于時笛吹正淸ナリ。基政所吹之皇仁年來聞之敢延章カ說ニタカハス。延章存スル此旨ヲ一トコロニ異說ヲ吹ニヨリテ、末ノ度其拍子謬了延章樂屋ヘ入テ基政ヲウラミテ云ク、年來貴說ヲ承ニ愚說ニタカハス、而今度異說ヲ吹テ落サル、テウ、生ナガラ首ヲキラシメルナリ。基政答云ク、全ク謬ラサル事ナリ。示サルカコトク傳ルトコロ誠ニタカワス、而面笛ニテ正淸床サラル休息ノタメニ笛ヲ元正(イ)政ニユツラル。彼命ニヨテ吹出ニハ彼人ノ說ヲ不吹シテ豈他說ヲ用ンヤ。大鼓ノ桴ヲトラル、ハカリニテハ何ノ說ヲモトモニコソハ知シメ給ハマシカト云ケル、ナタラカニメテタカリケリト云々。是笛吹ヲソムキテ我賢ニモテナスカイタストコロナリ。大鼓ノ桴ヲトラハ笛吹ト一心スベキナリ。

又云、白河院ノ御時御前ニシテ樂アリ、時元勅ヲ奉リテ大コヲ打畢、後日ニ元正ニ其善惡ヲ問シム。元正神妙之由講申。時元云ク、常ニ練セサル事ニテ恐ヲナシテ搔ヲ鼓ノ面ニノケスシテ打シメテ匂ナクソ聞ヘシト云ケリ。

朱此事前ニ載之、レドモヨ文字ヌマレヌ所ヲ引合テ心得カ爲ナリ

或云、大皷ノ音ノ何ノ調子ニモ音ノアヒテキコユルハ筒ノ中ニ五行ヲハリコメタルユヘナリト云々（私云、此説一定スヘカラス、サヤウニカヲツリテキコユル唐大皷モアリ、イツレノ調子ニモ合侍コト當家習有事此卷ニ注之可秘之）

又云、右キ大皷ノ中ヨリサキノトヒイテ、ユキケレハ大皷ノ精ハ白鷺ニテコソアリケントソ申ケル（是モ一説ノ事ナリ。家説ニ不可用之）

又云、フルカリケル大皷ノハチノ夜ナトハカフロナル小童ニナリテアリクアリケリト申傳タリ。（此説ハ人前ニテモ云ヘシ。其故アリ。例モアリヌベシ）

又云、八幡修（圖終ニ図ニョル）正ノ大皷昔シ其ヒ、キ遙ニ數里ノ外ニキコヘケリ。而ヲ別當慶清ノトキ打革ヲハリカヘラレシニ細工長運筒ヲ五寸キリツ、メテ後、其音咫尺ノ外ニイテストイヘリ。惣テ如ㇾ此ノ古物ヲカヤウニナヲス事ハヤウアルヘキ事ナリ。

大皷左右知事

左ハ鞆繪（朱）トモエノ數三筋ナリ。又筒ノ色赤キナリ。右ハ鞆繪ノカス二筋也。筒ノ色青キナリ。

乱序大皷

陵王ノ髪（ヤ、）取手案摩ノ打テ登ルトコロ還城樂ノ蛇曳トコロニハ舞ノ手ニシタカヒテ甲乙ニ大皷ヲ打合タルカメテタキナリ。（圖朝葛ガ説ナリ。右大鼓ノ譜故實前ノ説大概同樣ナレドモ少々相違ノ所取合テ撰之所載之也。）

右打物大概古來用説々故實口傳已下所載之能々被見ノ可覺知者也。

永正第六暦神無月中の五日の比ひとりつれ〴〵と思ふに一月くはゝる秋のあわれもいつの程に過きけむ、長月の月の有明も面影はかりに成はてゝ、床ちかく聞なれし虫のなく音も又いつの夕の霜にきえつらむ、あはれにおぼえいとゝ老の夜床ねざめかちならむかし、たなにはかりの身のいにしとは思ひなから、しのはしき世のふるきなみたそゝろになかれてあちきなきよはひのうへに、取かさねたる往事せんかたなし。いかなる世はなれたる山かけなとにもはひかくれなむあらまし事も老後には難叶事のみあれは、私宅のおくに山さとゝ名付てわら屋一つくり、松杉色々の草木山居にめなれし類もとめうへて侍。その折ふし前内府家へ三十首の御題申請侍に、山家といふ題給、則新造の山家ノ心を、（朱）三條内大臣實隆ノ御事ナリ、哥道ニ妙ナル御事也。予ハ此御弟子。

山にてもうからむ時のかくれ家や都のうちの松の下いほ

とつかうまつり侍。後に御合点の御事書に大隱は朝市にすむと云事あれば殊更神妙のよし被加御詞はや年月をふるまゝに、軒もあらはにあれはてゝ、ふりたる苔のみぎり、名もし

らぬ草木ども生かさなりて、誠に思ひし程は雨露ももらぬにやと、霞にかゝる春の山さと京極黄門詠し給しも思ひしられたり、庭には木のはみたりにちりしきて、時雨の月窓ふかくさし入、荻のかれ葉のかせいと身にさむくおとつれ、ひとりある人のいねかてなるもとわりすきたるに、猶よをのこす閨のともし火かすかなるをかゝけて、つく〳〵とうちまもらるも涙くましき目にはさたかならす、或人の申侍しは、人若年にて死るに善悪あるべし、其故は先幼少なれば二親につゐに老をいたさす、其家に生ても其道をつかす。適人ゝ受てつゐに正法にあはす、法理をきかねは一念の信をも不生、人間に生をうけて、雪月はなの興をも不知、無念の次第也。これは早世して悪方也。又成仁せはいかにも二親に忠孝ありて道をたすけ、世務のかたかしこくて主につかへ、傍には藝能をたしなみ文亡〔〇盲ノ誤〕ならす、人にもかしつかるべきに、此事一もなくして不道不善によろつ無理ならむ者は、先祖親類にも辱をあたへ、仏神をもあかめす、剰博奕をこのみ、はては盜人をむねとせむ。如此の悪黨は幼少にして死せむは可然、又年老ての善悪は身の盛なる時は何の藝なけれとも、或は馬のさきに走り、鷹野なとのしたかりをもし、世にある人の好道に立交、笛尺八鼓大鼓鞠揚弓音曲なむともよくはなけれと人數に加なむとしても有ぬべし。勿論弓馬の道に携り、當世は野伏の弓一肘射て唐〔〇虎ノ誤カ〕口一はかゝへむずらんなむと人に思はれてもしかなり漸歳たけてあれは、若時人前にて曲いひわらはれなむとしたるしほもうせて、人の遊の座席にもきらはれ、知音にもうとまれ、萬事に世をうらむる心出來していひかひなくなれば、なりかうり〔〇孝云「らり」若くは「たち」ノ誤カ〕もうせて人にさけしめらるゝ時は、我と獨ことにも無用のなかいきして、子にもみかきられ、一家一門にも目をひき耳をふり、無曲身とおもはれんさきに水に入ても死せむするものをと口惜かりなむとす。まるて寄合て云ことては、我身のさしいつる事をいひとゝめぬ曲事なりなと妻子に向て人の申を聞にも、さてもしなれぬ命のつれなさよなむと思には、いきて更に用なし。魏文帝ニ菊をたてまつりし彭祖が八百年いきたりし齡は目出けれとも、妻子あまたニはなれて、なけきかなしむ事しけし。所詮なしと其代にも後にも人の申傳たり、仙道を得たるむかしの人をさへ世に用なき者の長生をは人賞せぬ事なり。又道ある家に生たる人は不レ及レ申、藝なき親の子なれとも、緣にしたかひ儒家なとにも立入、思ゐかけぬ道を習傳へ、萬に其身のふんさひ

よりも尋常に、ものこしいやしからすけしきはゝ哥道詩聯句をも心にかけ、茶香なゝに至まて思ひすてず、つねに薫なゝ時にあへるをゝゝのへ、心にくきさまにゝし月を送てものゝにあはれをそへ侍る人は歳老ても猶人に心をかれはちしまれ、遊宴の興にもはへありて面白ゝにいはれん。これは平人の事なるへし。正得ゝして天下に道ある家の者に生て、其道を親の教(ヲシヘ)よりもすぐれてまなふ志ありて、習へき事の奥儀をきはめ、代々の名譽を受つゝて、先祖にもおゝらすなむゝ人にいはるれは、かならず天子幷將軍家の御師範にも參、又朋友あまたありて、ゝゝにふれ賞翫せられ、花の春の、月の秋にも、先此人にみせん事を催なり、かゝるもののすちよき人は後世をもなけく心ありて、正直に方便をすてゝ法華經を信べし。御經にも正像末の三時を分別し次第因縁を聞明て長世の闇をかなしみ、我のみならず人を勸る心ふかくて萬にあはれみある心ざま優にして、かきりあらむ病席に及はむにも、たのみ入たる正師善知識をちかつけまいらせて、この世のはかなき事に狐をゝゝめしゝつねに教化をうけて正念に南無妙法蓮華經ゝ唱むゝゝを心にかけ、思ひ入たる一大事ゝ其期を待べし。又いひをくへきかきりよく詞なゝして事可然身躰ならむ。これは歳よりて何事も思ふにかひある人の振舞なり。詮する所不定の堺なれば、わかくて死なむも不知、又六十七十の歳までやあらむずらむ、先心つきたる年齢より、世に有へき程の道々藝能時儀に隨てまなひ稽古して、もし身おふるまてなからへたらは、老のなくさめにもゝ思ふべし。勿論道の者に生れ來る人のゝは中々申もとあたらしく侍るなるべし。其家業を專ゝすべし、萬に沛艾ならす委細に慇懃なるべし。此條々老の眠さめやすくて夜を殘す習なれは、少々人の申侍しはし〳〵に詞を加、燈下にして書之侍る。此善惡に付ては古人もさそ沙汰し置侍文もやあらんすらん、引見はさもこそゝ思へゝも其才覺ゝゝこほるべきにあらず。たゝさすゝこころの理たにもきこえて千萬かひゝつもけにもゝ思子孫あらは心得をなすべきゝなれは文章にかゝらずたゞ蚊虻をさきゝしてよろつに不叶もの、ためなるべしゝなり。

この卷ゝに門外をいたすへからず。心にうかふまゝに染筆侍は前後相違して比興のものなり。穴賢〻〻。

古今樂錄曰、皷動也冬至之陰万物含陽而動也

糸本云夷作レ皷。

蔡邕獨斷曰、皷黄帝臣岐伯ガ所レ作也

易曰、皷之以雷霆ニ則其所レ象ヘ也。不レ知ニ誰之所レ造ヘ

說文曰、皷郭也、春分之音象ニ万物ニ郭皮申ノビ而出故謂之皷

禮曰、皷無レ當ニ於五聲ニ〻〻不得不知注云常猶主也蔡邕章句曰、皷所以檢カンガフル レ樂爲群長者也。

周禮曰、皷大而短則聲疾而短聞、皷小而長則聲舒而遠聞。

大皷、鉦皷重テ載之　近眞記前ニ雖載之重テ書之不審時取合可レ見ヘ

鷲拍子者第五帖ノ第一第五加三度拍子云ナリ。

或管絃者之說云、毎帖ノ頭コトニ一拍子ニ打三度拍子云々

乱聲　有三　新樂　古樂　高麗

新樂初拍子者　五由于六リ夕火。六由リリリリ夕由リリリリ六リ。

喚頭六丁夕火。夕由〻〻

古樂初拍子者　口リ中火夕火。夕〻中由〻〻中丁由リリリリ〻。

喚頭丁中リ丁火。夕丁中リ丁火夕丁中由夕リ。口リ中夕。

高麗初拍子者　丁押中リ夕リ速。夕〻由〻〻〻中丁由リリリリ〻

喚頭夕〻由リ〻〻中夕中丁由リリリ、。

先三度打立テ後片槌ニテ打之。五〻連夕由〻丁夕五此詞ノ時、又三度打立也。凡乱聲一返ニ打改事ハ二度習ナリ。鉦皷ハ大皷ヨリ打也。古樂高麗返立ツ。夕〻穴ニ打改ナリ。

乱序

古說　生太知太知生太知太知

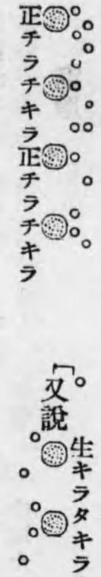
正チラタチ正チラタチ

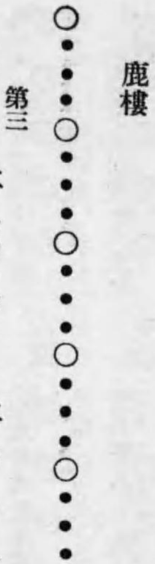
又說　大義ラ太知太キラ太ラ

又說　生右智太　生大

生智　生知大智〻

案摩





鹿樓

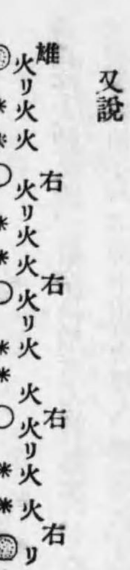
第三

一說○リ○火○リリ○リ第六○火○リ○火○リリ第三第九第三同前

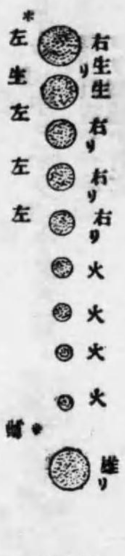
以五音作之說

師說云、笛ヲ吹テ息ヲツク處ニコトニ打ナリ。所ノ謂一鼓一拍子者似三度拍子而雌雄枹二拍子匂枹一拍子打之ヲ爲大鼓拍子也。

囀鉦鼓



蘇莫者序



宛初拍子之後如此打ハ爲常說

從第二句打ハ爲古說也

陵王荒序

常可用此說歟二四八舞時也口傳云

以左樋大ノ打革ニ付テ動

又說

同破

中丁由リ〻。中〻。丁中下。夕〻。夕中夕。中丁由六　右京樣
一比　一　一比　一比　左ナラ樣
九

抑荒序大鼓又說、破奈良樣者尤爲ニ秘事ト、殊可用八方荒序時云々、口傳云、亂序嗔序荒序入破等終拍子ハ不付于笛見テ舞人ノ腰打テ必可打合之。

見蛇樂破

上中。夕由リ〻上。五干。五干。中丁中。上夕由リ〻。中。

拔頭破

干夕由中。干夕由中夕。五〻テ六五〻。中　夕　五中。干六由三度打中〻。公兼之說也。同狛行高以此說爲秘說
也。但常ニハ初ヨリ搔連テ打之

胡飲酒破

中〻六干五干六〻　多氏說　從第二返之始打三拍子者舞略五返舞之時用之

六五干六。六夕〻。　奈良樣說、山村氏說同之

伽樓賞（〇寶ノ誤）破

口　夕　。中　六。五干六。中丁由。六干。五上由リ、。中夕〻リ。

大菩薩破

夕〻。上由〻干。干〻中丁由リ、。中夕。夕〻。中夕。六由、中六由リ、。上由〻夕。夕中　謂一拍子

夕。夕中五由リ。干〻五由リ五干六。六リ干六。五上由リ。中夕〻リ　口傳云、用道行時者以一鼓十六拍子

爲大鼓百子、用破者以一鼓拍子八爲大鼓一拍子

採桑老

託ヽ　果　託果　託　果託託託
＊＊◎◎＊＊◎◎＊＊◎＊＊◎
中ヽ。夕由ヽ中。一二。六丁。中ヽ夕上五。古樂打三度拍子一說指鼓打三拍子

蘇莫者破三鼓打樣

託ヽ　果託、託ヽ　託ヽ　果
＊＊◎＊＊＊＊＊◎＊
上夕由リ。中夕。丁六。五丁。中夕。中リ加拍子樣如還城樂破也。或管絃者說加三度拍子

喜春樂破

如陵王破搔之但京樣　古說打三度拍子　忠拍子如還城樂破打之

忠拍子時雖爲新樂加拍子口傳

◎＊＊搔＊◎＊＊　◎＊＊搔＊＊◎＊＊
中夕上連五。二リ六。二ヽ。中夕上連五ヽ夕上リ。中リ夕。中リヽリ。

口傳云謂之新古樂搔樣

輪鼓褌脫

＊　＊　◎＊　＊＊◎＊
二ヽ夕由ヽ。丁中。夕由ヽ中リ。　右拍子廿三用當世說　左拍子廿二有六揭鼓二處說

＊＊　◎＊　＊＊　◎＊　＊＊◎＊　＊＊◎＊　＊
二丁中。夕由中。中夕五由。夕リ上由夕由中リタ上六由丁。六上二ヽリ六由中ヽリ。夕由ヽ中リ

＊　◎＊　＊＊◎＊
夕上六由丁。六二上二ヽリ六由中ヽリ。

師云、此樂有多ヽ說、一說廿二手略吹之一拍子延一說廿四手延吹之近來不用之一說廿三此說近來用之加拍子樣有箇說、一者四拍子搔、二者亂拍子十一度、三度拍子一度三者鳥搔樣、四者還城樂破打樣但第十五拍子所此說殊爲秘事。五者一拍子說。

又云、有說口傳爲本惟季秘說云加一拍子之說第十二十四兩所延六拍子加三度拍子餘家不知之能々可令秘藏云々有樂拍子之說此時ハ一向爲新樂物可加一拍秘說曰如胡飲酒破加三度拍子第一爲秘說云

倍臚

＊　＊　◎＊　＊＊◎＊
中夕上連五。夕中夕上由。丁中ミリ
、、　　。一、、　謂此說月代上

＊＊　◎＊　＊＊◎＊＊＊　◎＊　＊　＊◎＊
六丁。中リ夕由。丁中ミリ上中丁夕火上由ミユ五丁ミリ。
、、　　。、一。一一　　。一一

師云、拍子十二一遍十二拍子四拍子說、喚頭吹云。二遍十二拍子八拍子說、半帖吹云　加拍子之樣三說。一者如還城樂破、二者鳥揷樣、三者拔頭樣、此外唐招提寺倍呂會一舞一說、頗異說タリ。謂之トウシカトウ鼓又月代上說ハ初拍子壺引上也、五拍子ニ宛之　有樂拍子之說　鬘雲樂躰吹之

此外揩鼓并三鼓鉦鼓已下略之。大鼓、鞨鼓者所々重書ニ同事可有之、取合テ可見之、自然ニ其心ヲ可ニ解了一併外見不レ可レ有者也。

鉦鼓重テ載之　序吹打樣

生生生ミ
＊＊＊ミ◎延保
生生生ミ

師說云、隨笛詞吉ミ可延打也。拍子ノ壺有長短、新鳥蘇古鳥蘇之初返樣ニ有宛三鼓拍子五所杲ヲ突ヲ待如常ノ四拍子打之云々。

破吹

急吹

生生　生生
生◎、生◎
生生　生生
生◎、生◎

校云ゴチ形活字ハ朱書下同	
生◎	甲
生＊	乙
生＊	乙
生＊、	乙
生◎	甲
生	
生	
生	
生	

口傳云、右樂者依無定度數隨舞手加拍子也。作輪舞ハ輪終立定加拍子有渡手舞ハ渡返テ對向之時加拍子無如此手舞ハ狛(コマカヒテ)ヒテ打返テ舞時加拍子是ハ大旨(シ)ハカリナリ。舞ニ付テ皆家々ノ說モ有相違、仍難指南可付舞人之說云々。

早吹後

甲乙旦乙甲乙
生生生生生
◎。◎。◎。　加拍子後◎生生　生生
生生生生生　生、。、◎生

口傳云、杲ト云音ハ指三ヲトヽノヘテツクナリ。又說云、以手押云、謂之革音、或管絃者說云、中ノユヒニテ革ヲハシク音云ナリ。

鉦鼓　越王勾踐所造也

後漢書云、鉦鼓之聲鉦音征俗云常古　兼名苑云、鉦一名鐃。如交反

口傳云、鉦鼓者少後左方尒慵氣拾タルガ目出也。高聲ニハ不可打之。又云、每有樂時對鉦鼓打云、慵〻拾云、謂鈴虫ハヽムシノサヘスリ嘲之

又云、早樂ハ左右捩ヲ互ニ拾テ大鼓壺ニハ雌雄捩〻音〻合打也。四拍子物ハ皆鉦鼓ハ拾テ打ナリ。

又云、蘓合破ノ鉦鼓拾ヒキ移急之處ニハヤカテ詞ヲ囀リテ打ガ目出キナリ。

又云、四拍子物ニハ必鉦鼓故ニ甘州蘓合破大平樂等雖延拾之甘州ハ末詞ヲ鉦鼓囀ナリ。

鉦鼓ノ部ノ下ニ淸書時可載之、同樣重テ書者取合テ可分別也。鞨鼓鉦鼓譜難見分之間而

也、兩帖ニテ大略打物終之侍ヘシ

南無妙法蓮華經

豐原朝臣　統秋（花押）

日本古典全集既刊書目總覽

（洋數字ハ全集册數。無記入ハ他卷併綴。＊ハ古典文庫編入ノ印。（狩）ハ棱齋全集。（西）ハ西鶴全集ノ略符。

【第一期刊行書目】

＊出雲風土記　1
＊常陸風土記　1
＊播磨風土記
＊豐後風土記
＊肥前風土記
萬葉集＊略解　8
懷風藻　1
凌雲集
文華秀麗集
＊校本日本靈異記（狩）　1
經國集
本草和名　2
＊御堂關白記・附歌集　2
本朝麗藻
源氏物語　5
榮華物語　3
平家物語　2
＊吾妻鏡　8
＊曾我物語　1
法然上人集　1
易林本節用集　1
＊好色一代男（西）　1
好色二代男（西）　1
＊西鶴諸國咄（西）　1
近代艷隱者（西）
好色一代女（西）　1
日本永代藏（西）
新可笑記（西）
本朝櫻陰比事（西）　1
世間胸算用（西）
俗つれづれ（西）
芭蕉全集　2
＊玉かつま　2
日本靈異記攷證（狩）　1
京游筆記（狩）
轉注說（狩）　1
扶桑略記校譌（狩）
每條千金（狩）
大隈言道全集　2

【第二期刊行書目】

＊古事記　1
＊採錄諸國風土記　1
＊竹取物語　1
古今和歌集・附教長注　1
土佐日記　1
＊大和物語
＊住吉物語
後撰和歌集　1
＊片假名本後撰集
＊延喜式　7
＊拾遺和歌集・附公任集　1
蜻蛉日記
更級日記
＊清少納言（枕草紙）家集　1
＊紫式部日記・附家集
和泉式部全集　1
＊唐物語
＊儀圖（信西古樂圖）　1
教訓抄　2
＊保元物語　1
＊平治物語
＊宇治拾遺物語　1

昭和八年六月十日印刷
昭和八年六月廿日發行
日本古典全集
【非賣品】
體源鈔二
編纂者　正宗敦夫
發行者　東京市豐島區長崎東町三丁目一六二　合資會社日本古典全集刊行會　代表社員　長島東一
印刷所　東京市豐島區長崎東町三丁目一六二　不二製版印刷所
印刷者　高瀨清吉
裝幀者　廣川松五郎
發行所　東京市豐島區長崎東町三丁目一六二　合資會社日本古典全集刊行會
振替東京七三〇三二

長秋詠艸　1
山家集
＊承久記
＊義經記　1
徒然艸　1
謠曲百番　4
＊諸勸分物　1
＊塵劫記　1
＊豎亥錄
＊因歸算歌
＊ぎやどぺかどる　1
＊妙貞問答　1
＊破提宇子
＊顯隱錄
好色五人女（西）　1
本朝甘不孝（西）
男色大鑑（西）　1
懷硯（西）
武道傳來記（西）　1
武家義理物語（西）　1
＊好色盛衰記（西）　1
＊一目玉鉾（西）
＊西鶴置土產（西）　1
西鶴織留（西）
萬の文反古（西）
名殘の友（西）
參考讀史餘論　1
＊賀茂眞淵集　1
與謝蕪村集　1
江漢西游日記　1
＊本朝度量權衡攷（狩）　2
＊錢幣考遺（狩）
＊錢幣考遺圖錄（狩）　1
日本現在書目證注（狩）　1
說文檢字篇（狩）　1
文教溫故批考（狩）
＊上宮聖德法王帝說（狩）
古京遺文（狩）　1
＊萬葉集品物圖繪　2

【第三期刊行書目】

日本書紀　4
伊勢物語　1
うつほ物語　5
後拾遺和歌集　1
金葉和歌集　1
詞花和歌集
千載和歌集　1
新古今和歌集　1
古今著聞集　2
伊呂波字類抄　8
人倫訓蒙圖彙　1
古押譜　2
五畿內志　3
物類品隲　1
雲根志　2
近世畸人傳（正續）　2
＊重訂本草綱目啓蒙　4
假字遺奧山路　2
＊歌舞妓年代記　3
歌儛品目　2
＊埋麝發香　1
＊觀古雜帖・附忠友歌集
蝦夷日誌集　3

18920

終